

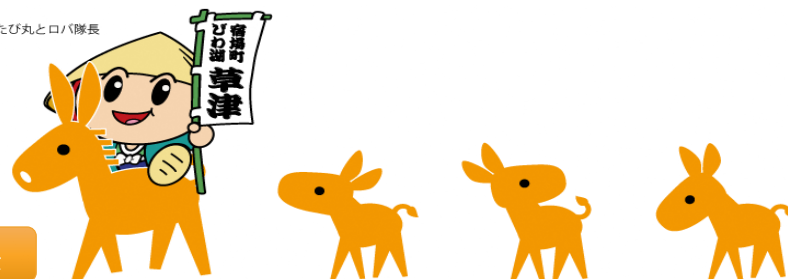
草津市認知症施策アクション・プラン（第2期計画）

～認知症があっても安心して生活できるまちづくり～

平成30年度第2回草津市認知症施策推進会議

平成31年2月12日（火）

たび丸とロバ隊長



たび丸とロバ隊長

第1回認知症施策推進会議の論点～ふり返り～

論点 1

基本目標 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発

重点目標

(1) 認知症サポーター養成講座の推進

拡充事業

論点 2

基本目標 2 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

重点目標

(5) 地域見守り体制の検討

新規事業

論点 3

基本目標 3 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

(5) 認知症初期集中支援チームの効果的な運用

拡充事業

論点 4

基本目標 5 認知症の人の介護者への支援

(5) 本人・介護者が集える居場所の支援

拡充事業

論点 5

基本目標 5 認知症の人の介護者への支援

(6) 地域に根差した介護者への支援の検討

新規事業

論点 6

基本目標 6 権利擁護の推進

(3) 高齢者虐待防止体制の構築 (7) 高齢者虐待防止の普及・啓発

新規・拡充

本日の論点について

●第1回草津市認知症施策推進会議を踏まえて

論点 1

基本目標 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発

重点目標 (1) 認知症サポーター養成講座の推進

拡充事業



今年度、養成講座受講後の認知症サポーターが、地域で活動する支援の取組みとして「ステップアップ講座」を実施。

このステップアップ講座について、より効果的な内容となるよう意見交換

論点 2

基本目標 2 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

重点目標 (5) 地域見守り体制の検討

新規事業

●基本目標 1 ●

認知症への理解を深めるための普及・啓発

拡充
事業

(1) 認知症サポーター養成講座の推進

目的 地域住民が、認知症サポーター養成講座を受講することによって認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者となり、できる範囲で活動できる。

前回の意見

前回の意見を踏まえた検討内容等

○働き世代の認知症サポーター養成講座について

・子どもに対する啓発も進んできており、とても重要性を感じている。一方で働き世代の方は認知症に向き合うまでの時間が子どもよりも早いため、企業への講座を進めていく必要があるのではないか。

<実績>

○企業リスト次のページ

<今後の検討内容>

○企業が行う人権研修の一環と位置付けた認知症サポーター養成講座の展開の検討。

○健康増進への取組意識が高く、市と共に「健幸都市宣言」に取組む企業への働きかけを検討。

認知症サポーター養成講座開催企業（平成19-30年）全83回

H30.12.31現在

医療関係/福祉関係	福祉関係	その他
草津総合病院	草津ケアセンター	J A・コープしが
近江草津徳洲会病院	特別養護老人ホーム帆の里	理容組合
エーザイ（株）ファイザー（株）	特別養護老人ホーム風和里	郵便局・滋賀銀行
オムロン	やわらぎ苑	草津市役所職員
（有）プラス薬局	老上デイサービスセンターきはん	草津警察署・消防署職員
アステラス製薬	デイサービスセンター常輝の郷	近鉄百貨店
コスモス成年後見センター	東和デイサービスセンター上笠の家	マックスバリュー
布亀家庭生活応援事業部草津事業所	だんらんの家	セブン-イレブンジャパン
エルビーコーポレーション	むつみ園	ふとんのフジタ
NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター	デイサービスてるてる元町	宅配クック123
さわやか福祉財団近畿ブロック	アサヒサンクリーンかがやきの杜	第一生命・朝日生命
株式会社 湖光	パナソニックエイジフリー	なごみの郷・ロク八荘公園事務所
NPO法人NARCびわこ湖南		マイカル草津サティ

養成講座受講後のサポーターの活躍支援

●ステップアップ講座について

前回の認知症施策推進会議でも課題に挙がっていた、

認知症サポーター養成講座受講後の活動を支援する取組みとして、

今年度から**ステップアップ講座**を開催。

◇対象

- ・ 認知症サポーター養成講座を受けた方で申し込みがあったグループ

◇内容

- ・ ステップアップ講座指導者研修テキストを参考に、認知症キャラバンメイトさんとの協議により作成。認知症をさらに詳しく、自分がサポーターとして**できそうなこと・やりたいこと**をグループワークにて考えていただく機会になる。

(別紙：資料1－2参照)

養成講座受講後のサポーターの活躍支援

◇**今年度実績** 3回51人受講（9割が70代以上）

開催団体・・野村第二老人クラブ、上笠第二老人クラブ
ミックスイきいき百歳体操

認知症サポーター養成講座以降の変化（アンケートより）	人数 (複数回答)	回答率
オレンジリングをつける	11/51	21.5%
認知症の人やその家族の相談にのっている	6/51	11.7%
近所の人とよく挨拶している	33/51	64.7%
定期的な声かけなど、地域の認知症の人の見守り活動をしている	12/51	23.5%
認知症の啓発や支援など、広くボランティア活動をしている	6/51	11.7%
認知症カフェや地域サロンのスタッフとして活動している	3/51	5.8%

さらに多くの方の効果的な行動・活動につながる仕組みとして
ステップアップ講座の内容をよりよくしていきたいと考えている。

認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

新規
事業

(5) 地域見守り体制の検討

目的

地域における様々な関係者のネットワークを構築し、お互いに声かけや見守りを行うことで、認知症の人やその家族を含む高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。

内容

認知症の有無に関わらず、高齢者が地域サロンや体操団体、認知症カフェ等の居場所に通うことでお互いの声掛けや見守りを進めます。
 高齢者に限らず地域の活動団体のPRや地域住民の交流推進・啓発によって見守り体制の強化を図ります。
 また、小学校区ごとに生活支援コーディネーターの配置と協議体を設置し、地域住民や関係機関とともに話し合いを通じて見守りなどの活動につながるよう、働きかけます。

展望

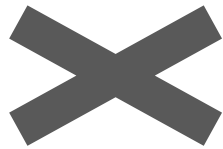
○本市では、地域づくりの推進に向け高齢者の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合う（共感→共考→共働）場を増やしています。
 ・小学校区毎に「学区の医療福祉を考える会議」を開催。H31.1月末現在 12小学校区で開催。

〔STEP 1 共感・共考〕認知症高齢者や要介護で支援が必要な高齢者にとって、声掛け・見守り・ちょっとした手伝い・居場所があれば地域で生活ができることを共有。
 ・見ず知らずの他人には、なかなか声がかかけられない。まずはお互いを知るために、サロン等の活動を通じて、つながりをつくり・広げる。
 ・いざという時に“助けて”と言える関係づくり、抱え込まない関係づくり。
 ・町内会単位の活動を広げ、地域なりの見守り活動を深めよう。


〔STEP 2 共働〕今後、居場所をはじめ、声掛け・見守り等の様々な活動“あったらいいな”を形にし、高齢者にやさしい地域づくりを推進する。

「地域づくり」に向けて ～2つの視点によるアプローチ～

「地域ケア個別会議」を通じた
個別アプローチ



「学区の医療福祉を考える会議」
を通じた地域アプローチ

- 認知症は「我が事」と捉える
 - 顔なじみの関係から「助けて」と言える関係づくり
- 
- 認知症サポーター養成講座等、認知症講座の実施
 - 地域安心声かけ訓練の実施
 - その他新たな展開の期待

①個別アプローチによる地域見守り体制づくり

地域ケア個別会議の実例報告

〔事例①〕女性80歳代 要介護3 夫婦2人暮らし。認知症有り。子の関わり有り。

- ◆課題◆お店まで出かけると帰るべき曲がり角を通過してしまう。
- ◆目的◆頻度は少ないが外出時の地域の見守りを一緒に検討してもらおう。
- ◆参加者◆夫婦・子・民生委員・自治会長・ケアマネ・事業所・包括・行政
- ◆結果◆本人は夫と共に地域の活動に参加し認知度を高める。地域は自治会役員で情報共有し、買物などで出かけられたら声かけや連絡をしてもらう。

Point

- ☞地域ケア会議に本人と家族、地域の民生委員や自治会長さんに参加いただいた。
 - ☞キーパーソンの夫と一緒に地域活動に参加し、認知症であることを公言できた。
 - ◆「助けて」といえる地域づくりの第一歩が踏み出せた。
- 地域の自治会役員で情報共有が行われ、本人への声かけの大切さを共通理解。
- ◆「声かけ・連絡」といった地域にとって極度な負担とならない支え合いの実現。

②地域アプローチによる地域見守り体制づくり

学区の医療福祉を考える会議より

<よくある事例>

独居のAさん（80歳）。病気で入院したが認知症も始まり介護が必要な状態に。家族は遠方で、仕事をしており支援ができない。介護保険サービスのヘルパー等を利用して、自宅では24時間365日安心して生活できる環境を整えることはかなり厳しい。➤**施設入所へ。しかし本人の願いは・・・？**

近隣の人の見守りなど、地域に支える力があれば在宅生活は可能になる。

見守り体制づくりについて地域の方と話し合いをするが、

地域の厳しい現実…

町内で〇〇の役をしているが、自分自身も高齢になり、他の人の見守りもしなければならぬというのは負担を感じる。また、町内の〇〇の役を次に引き受けてくれるなり手もない中、次の人に過剰な役割を引き継がない。

- ・超高齢社会、共働き世帯の増加、希薄化等により、**地域では様々な担い手不足。**
- ・地域の各代表者等も危機感あり、時にはあきらめ感もあり。

現状 と 課題

学区の医療福祉を考える会議を通じた地域アプローチ

【現 状】

- ◆代表の方は、他にも複数の役を担っており、新たな取り組みは負担が大きく困難。既存団体、組織員も高齢化、担い手不足で今ある活動で手一杯な状況。
- ◆考える会議の参加者は、地域の団体・組織の代表、役員として出席されており、任期で交代されるため、また新しい役員の方と一から共通理解を図っていく必要があり、活動につながりにくい。



【課 題】

- 高齢者の暮らしの問題を他人事ではなく、我が事として共感する人を会議メンバーだけでなく、学区全体に増やしていく。
- 既存の役員の方以外に、地域での見守り活動ができる新たな担い手の確保。

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況 等
笠縫東学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・老・老介護者、独居高齢者、認知症高齢者の生活課題等について意見交換を繰り返し実施。(～H27まで4年間計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常から地域でつながりをもつことの重要性を共有(H28・H29) ・高齢者が集まる「地域サロン」等の活性化に向けた具体策を検討(H30) <p>〔現状・課題〕運営する人の高齢化、参加者の固定化、担い手不足</p> <p>※新たな地域メンバーの出席者を増やし、共感・共考の輪を広げる</p>
老上学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など(～H28まで約4年間計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守る仕組みとして交流を通じた居場所/拠点が必要(H29) <p>➡「地域支え合い運送支援事業」の開始、「カフェほっこり」の開催(H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり」では、介護事業所の協力により専門的な相談会が実現 <p>〔現状・課題〕運営に関して理解・協力できる人の育成・確保</p> <p>それぞれの地域活動をつなげる取組みの検討</p>
老上西学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など(～H28まで約4年間計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守る仕組みとして、町内会単位での交流が重要(H29) <p>➡「地域支え合い運送支援事業」事業の開始(老上学区と合同運営)</p> <p>〔現状・課題〕町内会でつながりを広げるための方法について検討中</p>

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況 等
山田学区	(平成25年～) 計15回開催	<p>※高齢化率が高く地域の方の危機感があり、支え合い活動が展開されている地域。</p> <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のすばらしさについて地域の方に十分理解されていない。その結果、新たな活動者が増えず過度な負担となってきた。 ・地縁関係が強く、認知症を公言しづらい。(迷惑をかけられない) <p>▷高齢者の暮らしの問題や、地域の多様な支援活動等の理解を深め、地域ぐるみで、困った時には「助けて」と言える関係づくりの啓蒙が必要。</p>
志津学区	(平成27年～) 計14回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・志津のあんしんつながりノートの作成・配布など（～H29 11回） ・<u>認知症になっても安心なまち志津を考える（H30～）</u> <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の開催、地域安心声かけ訓練の実施につながる <p>▷地域の様々な団体がつながり、さらなるネットワーク化を検討。</p> <p>▷地域安心声かけ訓練は定期的実施する必要があるという主体性が生まれる。</p>
矢倉学区	(平成27年～) 計9回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ期より、認知症に関心が高く、町内会単位の様々な地域活動を周知し、広め「矢倉なりの見守り活動」の普及を目指す。 <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域のつながりの場を見守りのベースとし、「憩(居場所/拠点)」を広める（H30～）</u>

〔順不同 H31.1末時点〕

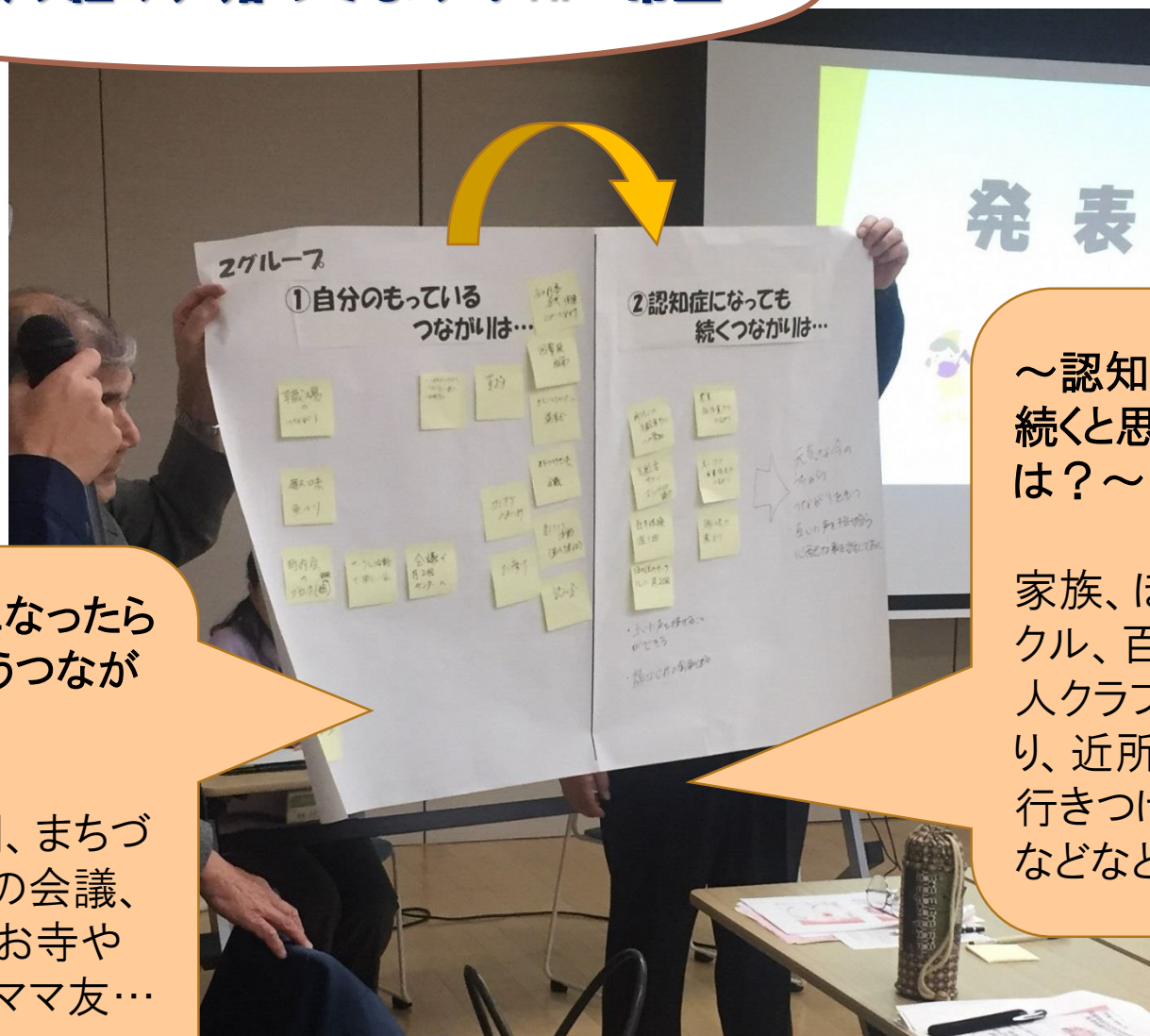
学区・地区	開催回数	現在の状況 等
常盤学区	(平成27年～) 計8回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの策定を通じて、学区の特徴を知り在宅介護生活について理解を深める（～H29まで計6回開催） ・事例を通じて認知症になっても続けたい生活(サロン活動等)について理解を深める（H30） <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地縁関係が強く、認知症を公言しづらい。(迷惑をかけられない) <p>▷元気なうちからサロン等への参加を通じて「助けて」と言える地域づくりを目指す</p>
渋川学区	(平成27年～) 計6回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップや認知症ケアパスの策定、事例を通じて、学区の特徴を知り、認知症について理解を深める。 ・町内会単位での啓発を目的に介護サービス事業所の協力による座談会「わいわいがやがや」を発足 ・「つながり」が、介護予防となり認知症ケアになると理解 <p>▷学区としてどのように「つながり」が広げられるか検討</p>
玉川学区	(平成29年～) 計4回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症」や「つながり」など4つのテーマで高齢者の暮らしの問題について理解を深める。 <p>▷今後、学区として、暮らしの問題の解決につながる取組を検討予定</p>
笠縫学区	(平成29年～) 計12回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症」に関する勉強会や研修等を開催。 <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・75才以上高齢者数が市内最も多い地域（9月末：1,605人14.72%） ・認知症等への関心は非常に高く、多数の方が研修へ参加 <p>▷今後、地域づくりに向けた会議へと展開していく</p>

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	経緯・開催回数	現在の状況 等
南笠東学区	(平成28年～) 計5回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの作成を通じて、学区の特徴を知り高齢者の暮らしの問題について理解を深める（～H29まで計4回開催） 〔現状・課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ・地域一体となった健康づくりに対して関心が高い ・まずは、高齢者の暮らしの問題について、明日は「我が事」と捉える共感を広げ、今後、地域づくりに向けた会議への進展を目指す必要あり。
草津学区	(平成30年～) 計2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」の大切さについて、共通理解を深める。 〔現状・課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ・地域として希薄化の実感があり、学区としてどのように「つながり」を広げられるか検討中。
志津南学区	第1回目を 開催予定 (平成30年度)	〔現状・課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が多い地域と高齢者世帯が多い地域と2極化している。 ・学区内の若草地域では、高齢化率が40%を超えており、主体的に居場所や支え合い活動に取り組まれている。 ▷高齢者に限らず、多世代の暮らしの問題という視点を持った地域づくりの会議開催を目指す。
大路学区	(調整中)	〔現状・課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ・駅前地域でマンションが林立し希薄化が顕著。 ・町内会やマンション単位で展開されている地域サロンや百歳体操等の活動団体へのアプローチにより地域づくりに対する気運を高める必要あり。

取り組み紹介

こんな取り組み、始めてます！ in 常盤



～認知症になったら
切れてしまうつながり～

職場の仲間、まちづくりセンターの会議、民生委員、お寺や神社の役、ママ友… などなど

～認知症になっても
続くと思えるつながり
は？～

家族、ほのぼのサークル、百歳体操、老人クラブ、趣味の集まり、近所の人、畑仲間、行きつけの居酒屋… などなど

取り組み紹介

こんな取り組み、始めてます！

グループワークで出た意見、気づいたこと

☺「付き合いが長い」「趣味などの個人的なつながり」「認知症に対する理解者や支援者がいる」といった要素があると認知症になってもつながり続けられる。元気な時からのそうした仲間づくりをしとかなあかなあ。

☺認知症になったことや心配事などをオープンにできるように、つながり続けたい人には、ちょっとしたことでも日ごろから相談するくせをつけておくといいかも。

☺認知症の理解者や支援者がいると、つながり続けられる。そういう人がサロンやサークル、百歳体操、行きつけのお店などにいてくれるといいなあ。

☺認知症であることを理解し、支援してもらえるようまわりに公表していくことが大切。また公表できるためには、認知症を理解してもらえる地域になることも大切。

これらを実現していくために、市全体で取り組むとよいと思われることについてご意見をください！